

一筆啓上

# 作左通信



第七十二号 平成二十七年七月二十二日(月)発行

## 徳川家康公ゆかりの寺を尋ねて

去る六月二十日(土)、一筆啓上・作左の会恒例の視察旅行に総勢三十九名の参加者があり、良い天気にも恵まれ楽しい研修になりました。

今年度は徳川家康公の没後四百年にあたり、家康公ゆかりの寺を尋ねました。バスの中で横山茂様から家康公の幼少時代から徳川幕府開府までの話を拝聴しました。最初に訪れたのは、大樹寺です。この寺は松平家四代目親忠が創建した松平家・徳川将軍家の菩提寺として有名

です。住職の説明を拝聴しながら、宝物殿の襖絵・将軍家お成りの間・松平八代と徳川歴代将軍の等身大の位牌を拝観しました。

家康公が十九歳の時、桶狭間の合戦で今川義元が織田信長に打たれた為、家康公は身の危険を感じ大高城から大樹寺に逃れてきた時、先祖の墓前で自害する覚悟でいました。当寺の十三代住職の登壇上人に説得され翻意しました。家康公の人生観を確立するきっかけになりました。

した。家康公が偉大な人物であることを痛感しました。



大樹寺にて参加者全員の記念撮影

おり、見せて貰いました。三番目に訪れたのは、幸田町にある本光寺です。この寺は、深溝松平家の菩提寺で、アジサイ寺として有名で、丁度アジサイが美しく咲いていました。資料館では、徳川将軍家の歴代の位牌と松平家の位牌、慶長小判・西洋製グラス(昭和二十年八月の豪雨により発見された)など展示物を拝観しました。

二番目に訪れたのは、本宿町にある法蔵寺です。この寺は飛鳥時代に行基が創建しましたが、南北朝時代に浄土宗に改宗され、松平家の菩提寺になりました。家康公は幼少時代に住持・教諭上人に読み書きを習っていて家康公の書いた文字が保存されて

さて、昼食ですがJR三ヶ根駅前の「魚魚丸」でおいしい魚介類料理と寿司を頂きました。少々お酒も入り楽しい一時を過ごしました。最後は、幸田町の道の駅「筆柿の里・幸田」でショッピングを楽しんでいただき、研修旅行が無事終わりました。皆様のご協力に感謝します。